

シラバス

2024年度版



鍼灸医療科第二部 3年

学校法人 赤門宏志学院

仙台赤門医療専門学校

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	今野 弘務 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	鍼灸臨床実技Ⅳ	曜日・時間	月曜日 17:40～

【授業概要・目標】
 1, 鍼灸実技の基礎を再確認 2, 臨床の実際

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	治療理論
3	治療理論
4	診察
5	診察
6	診察
7	診察
8	配穴法
9	臨床の実際(肩こり)
10	臨床の実際(頸部の疾患)
11	臨床の実際(頸部の疾患)
12	学校協会実技試験対策
13	学校協会実技試験対策
14	実技試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	学校協会実技試験対策
2	学校協会実技試験対策
3	臨床の実際(上肢の疾患)
4	臨床の実際(腰部の疾患)
5	臨床の実際(腰部の疾患)
6	臨床の実際(膝の疾患)
7	臨床の実際(膝の疾患)
8	臨床の実際(その他下肢の疾患)
9	臨床の実際(その他下肢の疾患)
10	臨床の実際(頭痛、めまい)
11	臨床の実際(妊活)
12	臨床の実際(つわり、逆子)
13	臨床の実際(小児)
14	実技試験
15	評価点検

評価方法	実技試験の結果、平常点を考慮し評価する。
授業の進め方	実技を中心に行うので、授業前に学生同士、練習相手となる組(ペア)を決めておいて欲しい。※、毎時間、別な相手であることが望ましい。
注意 (学生に望むこと)	鍼灸実技の基本的な操作、手順は、日頃から練習を行ってほしい。
テキスト・参考書	とくになし。

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	國分 壮一 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	鍼灸臨床実技 I	曜日・時間	月曜日 19:15～

【授業概要・目標】
 基本的な実技を学習・訓練してもらいます。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	実技のオリエンテーション
2	① 四診
3	② 四診
4	鍼灸の実技
5	実技の訓練
6	実技の訓練
7	実技の訓練
8	実技の訓練
9	実技の訓練
10	実技の訓練
11	実技の訓練
12	実技の訓練
13	実技の訓練
14	前期実技試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	症例形式の実技
2	症例形式の実技
3	症例形式の実技
4	症例形式の実技
5	実技の訓練
6	神経刺鍼法 ①
7	神経刺鍼法 ②
8	神経刺鍼法 ③
9	神経刺鍼法 ④
10	神経刺鍼法 ⑤
11	症例形式の実技
12	症例形式の実技
13	症例形式の実技
14	後期実技試験
15	評価点検

評価方法	出席・定期試験(2回実施)により評価する。
授業の進め方	配布するプリントとプレゼンテーションにより行う。
注意 (学生に望むこと)	実技と理論の習得と実技中の集中力を取得してほしい。
テキスト・参考書	指定された教科書とテキストを用いる。

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	萱場 公雄	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	関係法規	曜日・時間	火曜日 17:40～

【授業概要・目標】
 保健医療福祉制度の中におけるあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師の位置付けや職業倫理について理解を深める。生涯を通じて、健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を養うことを目標とする。
 医療法、医師法等の医事法の体系の中での「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」、社会保障法、社会福祉関係法について学ぶ。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	関係法規入門(1) 関係法規とは、関係法規と医事法(学)
2	(2)法の概念、法の領域、法の存在形式
3	(3)法秩序の構成原理、法の解釈
4	医療法(1)医療法の概要、医療法の目的、 医療提供の理念、医療関係者の責務
5	(2)医療提供施設の種類と定義、 類似名称の使用制限
6	(3)医療提供施設の要件、 法定人員、構造設備の基準等
7	(4)医療提供施設の管理監督等、 医業等の広告の制限
8	(5)医療計画、医療法人、地域医療連携 推進法人、医療審議会、地域保健法
9	医師法(1) 医師法の概要、資格法、臨床研修
10	(2)業務法、医業と医業類似行為
11	(3)義務法、罰則、秘密保持義務
12	他の医療関係者に関する法律(1) 歯科医師法、保健師助産師看護師法、 診療放射線技師法、臨床検査技師等法
13	(2)理学療法士及び作業療法士法、 視能訓練士法、言語聴覚士法、 臨床工学技士法
14	(3)義肢装具士法、救急救命士法、歯科衛 生士法、歯科技工士法、柔道整復師法 医師と他の医療関係者の業務の関係、 名称独占と業務独占
◆	前期試験(試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師 等に関する法律(1)法律の沿革、法制定の 目的、指定試験(登録)機関の指定
2	(2)指定試験(登録)機関が試験(登録) 事務を行うときの規定の適用
3	(3)免許、免許の取得と取消、名簿、 登録事務、学校・養成施設、試験
4	(4)施術者の業務、守秘義務等
5	(5)施術所に関する規制、広告の制限、 免許取消と業務停止
6	(6)罰則、両罰規定
7	(7)医業類似行為とその規制、 医業類似行為に関する判例
8	その他の関係法規(1)-予防衛生法規、薬 事関係法規-感染症の予防及び感染症 の患者に対する医療に関する法律、予防 接種法、医薬品医療機器等法、薬剤師法
9	(2)-保健衛生法規-健康増進法、母子保 健法、母体保護法、精神保健及び精神障 害者福祉に関する法律
10	(3)-社会保障関係法規-健康保険法、高 齢者の医療の確保に関する法律、 介護保険法
11	(4)-社会福祉関係法規-社会福祉法、生 活保護法、老人福祉法、児童福祉法
12	(5)障害者基本法、障害者の日常生活及び 社会生活を総合的に支援するための法 律
13	(6)身体障害者福祉法、 知的障害者福祉法、発達障害者支援法
14	個人情報保護法
◆	後期試験(試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	前期、後期の筆記試験による評価。前期試験は、記述問題と選択問題、 後期試験は、国家試験に準じた選択問題とする。
授業の進め方	講義方式。医療六法の条文を読み理解する。
注意(学生に望むこと)	授業中の私語は厳禁とする。基本的なマナーを守ること。

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

テキスト・参考書

必要に応じて、レジユメを配布する。
医療六法令和6年版(必携) 前田和彦監修 関係法規 医歯薬出版

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	古川 雄一郎 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	鍼灸理論 I	曜日・時間	火曜日 19:15～

【授業概要・目標】	
①1年次に学習した鍼灸の基礎知識・リスク管理について復習をし、より理解を深める	
②「鍼灸がなぜ効くのか？」を鍼灸の一般治効理論や関連学説を通して理解する	
そして、患者さんに説明できるようになることを目標とする	

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	第9章 鍼灸治効の基礎
3	第9章 鍼灸治効の基礎
4	第9章 鍼灸治効の基礎
5	第9章 鍼灸治効の基礎
6	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
7	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
8	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
9	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
10	第10章 鍼灸療法の一般治効理論
11	第11章 関連学説
12	第11章 関連学説
13	第11章 関連学説
14	前期まとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	第1章 概論
2	第2章 鍼の基礎知識
3	第3章 刺鍼の方法と術式
4	第4章 特殊鍼法
5	第5章 灸の基礎知識
6	第6章 灸術の種類
7	第7章 鍼灸の臨床応用
8	第8章 リスク管理
9	鍼灸理論 国試演習①
10	鍼灸理論 国試演習②
11	鍼灸理論 国試演習③
12	鍼灸理論 国試演習④
13	鍼灸理論 国試演習⑤
14	後期まとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	前期:筆記試験による、後期:筆記試験による その他:出席状況、授業態度なども考慮する
授業の進め方	教科書に基づいてプリントを進めるが、学習状況により内容が前後したり、変更したりすることがある
注意 (学生に望むこと)	鍼灸治効機序は、生理学が主体となっているため、生理学の復習を重ねて、基礎を身につけて下さい
テキスト・参考書	『はりきゅう理論』『はりきゅう実技<基礎編>』(東洋療法学校協会編) 『生理学 第3版』(東洋療法学校協会編)

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	浦山 久嗣 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	東洋医学各論Ⅱ	曜日・時間	金曜日 19:15～

【授業概要・目標】
 施術者として必要な東洋医学の基本概念、診察法および治療法の概要を理解する。
 東洋医学の知識や技術を総合的に運用し、適切かつ効果的に施術を行う能力を修得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	ガイダンス、東洋医学の特徴
2	診察と治療の原理原則
3	カルテ(治療記録)の記載法
4	POMRとSAOP
5	取穴法と選穴法
6	要穴の種類
7	要穴の運用
8	刺鍼手技の種類
9	刺鍼法の種類
10	施灸法の種類
11	経絡学総論
12	舌診
13	問診
14	脈診
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	脈診演習
2	治療演習
3	病因病機学概論
4	弁証学Ⅰ(八綱弁証)
5	弁証学Ⅱ(気血津液弁証・病邪弁証)
6	弁証学Ⅲ(臓腑弁証①肝・心・肺)
7	弁証学Ⅳ(臓腑弁証②腎・脾・六腑)
8	弁証学Ⅴ(外感温熱弁証)
9	鍼灸医学史Ⅰ(医療と人類)
10	鍼灸医学史Ⅱ(古代・中世中国)
11	鍼灸医学史Ⅲ(古代・中世日本)
12	鍼灸医学史Ⅳ(近世中国)
13	鍼灸医学史Ⅴ(近世日本)
14	鍼灸医学史Ⅵ(近現代)
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	期末試験の成績を主とし、普段の授業態度等を加味して評価する。
授業の進め方	指定した教科書を主とし、不足分は配布資料を以て補う。
注意 (学生に望むこと)	予め授業分の内容は教科書に目を通しておくこと。 授業後は配布資料を確認し復習すること。
テキスト・参考書	『新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)』(南江堂2022年刊) 『これからの「脈診」の話をしよう!!』(たにぐち書店2018年刊)

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	國分 俊繁 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	東洋医学臨床Ⅲ	曜日・時間	水曜日 19:15～

【授業概要・目標】
 前期: 第1章「疼痛」の範囲、臨床で遭遇する可能性の高い腰下肢疾患の病態把握及び治療を学ぶ。
 後期: 第2章「臓腑と関連する症候」の範囲、前期と同様に第4節「その他の疾患」・第7節「老年特有の症候」について学ぶ。該当範囲が修了したら国家試験の対策授業とする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	実力試験
2	P127 第1節 腰下肢痛-①
3	P127 第1節 腰下肢痛-②
4	P136 第1節 腰痛-①
5	P136 第1節 腰痛-②
6	P146 第1節 下肢痛-①
7	P146 第1節 下肢痛-②
8	P154 第1節 膝痛-①
9	P154 第1節 膝痛-②
10	P164 第1節 胸痛-①
11	P164 第1節 胸痛-②
12	P170 第1節 腹痛-①
13	P170 第1節 腹痛-②
14	前期まとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	P405 第4節 顔面麻痺
2	P413 第4節 歩行異常
3	P422 第4節 口渇
4	P432 第4節 出血傾向
5	P529 第7節 老年特有の症候
6	国家試験対策問題Ⅰ
7	国家試験対策問題Ⅱ
8	国家試験対策問題Ⅲ
9	国家試験対策問題Ⅳ
10	国家試験対策問題Ⅴ
11	国家試験対策問題Ⅵ
12	国家試験対策問題Ⅶ
13	国家試験対策問題Ⅷ
14	後期まとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	小テストの結果及び定期試験で評価する。
授業の進め方	教科書に沿ったスライド資料を作成、そちらを授業資料として進める。
注意 (学生に望むこと)	国家試験受験の学年となります。授業で聞いた事を吸収してその年の国試に活かせるよう頑張ってください。
テキスト・参考書	新版 東洋医学臨床論(はりきゆう編)

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	川嶋 睦子 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	曜日・時間	木曜日 17:40～

【授業概要・目標】
 臓腑と関連する症候(肝系統・心系統・脾系統・肺系統・腎系統)についての適応・不適応の鑑別。また西洋医学的・東洋医学的な考え方の病態・症状から、各疾患の鑑別方法について学習し、臨床に活かせる知識を習得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	P181 第2節 臓腑と関連する症候 2-1 肝系統 I. 眼精疲労
2	P187 第2節 臓腑と関連する症候 2-1 肝系統 II. 気分障害
3	P198 第2節 臓腑と関連する症候 2-1 肝系統 III. めまい
4	P208 第2節 臓腑と関連する症候 2-2 心系統 I. 動悸・息切れ
5	P214 第2節 臓腑と関連する症候 2-2 心系統 II. 血圧異常
6	P222 第2節 臓腑と関連する症候 2-2 心系統 III. 睡眠障害
7	P232 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 I. 食欲不振
8	P232 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 II. 肥満
9	P246 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 III. やせ(るい瘦)
10	P252 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 IV. 悪心・嘔吐
11	P259 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 V. 便秘
12	P267 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 VI. 下痢
13	P275 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 VII. 歯痛
14	P282 第2節 臓腑と関連する症候 2-4 肺系統 I. 咳嗽と喀痰
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	P304 第2節 臓腑と関連する症候 2-4 肺系統 III. 鼻閉・鼻汁
2	P314 第2節 臓腑と関連する症候 2-5 腎系統 I. 脱毛症
3	P323 第2節 臓腑と関連する症候 2-5 腎系統 II. 耳鳴り・難聴
4	P335 第2節 臓腑と関連する症候 2-5 腎系統 III. 排尿障害
5	P346 第2節 臓腑と関連する症候 2-5 腎系統 IV. ED(勃起障害)
6	P439 第5節 女性特有の症状 I. 概説 P445 第5節 女性特有の症状 II. 月経異常
7	P459 第5節 女性特有の症状 III. 性器出血
8	P467 第5節 女性特有の症状 IV. 帯下
9	P474 第5節 女性特有の症状 V. 不妊症
10	P482 第5節 女性特有の症状 VI. つわり
11	P489 第5節 女性特有の症状 VII. 骨盤位(逆子)
12	P495 第5節 女性特有の症状 VIII. 乳汁分泌不全
13	P474 第5節 小児特有の症候 I. 概説 II. 疳の虫
14	P513 第5節 小児特有の症候 II. 疳の虫 III夜尿症
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記試験(80%)、小テスト(10%)、授業意欲(10%)から総合的に評価する。
授業の進め方	各項目の適応・不適応、西洋医学的・東洋医学的な考え方の病態・症状・鑑別方法を理解し、鍼灸臨床に応用できるようにする。
注意 (学生に望むこと)	配布プリント・課題の予習をして授業に臨んでください。
テキスト・参考書	新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)。履修内容順に講義を進行する。 ただし学生の能力に応じて変更有り。

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	川嶋 睦子 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	鍼灸臨床実技Ⅱ	曜日・時間	木曜日 19:15～

【授業概要・目標】	
①奇経の診察(四診)点と主治症を判断と治療、穴に基づき主治穴を単独または一对での治療原則の習得。	
②各疾患の病態・適応・不適応の所見の取り方の習得。	

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	奇経八脉の流注と病証①
2	奇経八脉の流注と病証①復習
3	奇経八脉の流注と病証②
4	奇経八脉の流注と病証②復習
5	奇経八脉の流注と病証③
6	奇経八脉の流注と病証③復習
7	奇経八脉の流注と病証④
8	奇経八脉の流注と病証④復習
9	まとめ
10	まとめ
11	鍼灸実技評価審査練習①
12	鍼灸実技評価審査練習②
13	実技試験
14	前期試験
15	解答

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	肺経・大腸経の是動病と所生病
2	上記:経穴取穴・四診
3	胃経・脾経の是動病と所生病
4	上記:経穴取穴・四診
5	心経・小腸経の是動病と所生病
6	上記:経穴取穴・四診
7	膀胱経・腎経の是動病と所生病
8	上記:経穴取穴・四診
9	心包経・三焦経の是動病と所生病
10	上記:経穴取穴・四診
11	胆経・肝経の是動病と所生病
12	上記:経穴取穴・四診
13	実技試験
14	後期試験
15	解答

評価方法	症例報告、授業への(出席、態度含)取り組みと筆記、実技試験との総合判定
授業の進め方	履修内容順に講義を進行する。 ただし学生の能力に応じて変更有り。 授業内で診断・手技の口頭質問あり。
注意 (学生に望むこと)	総合的診断・技術能力を高めるために課題を提出。
テキスト・参考書	教科書(東洋医学概論・東洋医学臨床論・経絡経穴概論・解剖その他), 配付資料

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	高橋 武彦 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	リハビリテーション医学	曜日・時間	金曜日 19:15～

【授業概要・目標】
 リハビリテーション医学の基礎的な概念や評価法等を学び、障害発生に関連する疾患への対応を知る。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	リハビリテーションと障害-1
3	リハビリテーションと障害-2
4	リハビリテーション医学と医療-1
5	リハビリテーション医学と医療-2
6	障害の評価-1
7	障害の評価-2
8	障害の評価-3
9	医学的リハビリテーション-1
10	医学的リハビリテーション-2
11	医学的リハビリテーション-3
12	医学的リハビリテーション-4
13	前期総合復習-1
14	前期総合復習-2
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	脳卒中のリハビリテーション-1
2	脳卒中のリハビリテーション-2
3	脊髄損傷のリハビリテーション
4	切断のリハビリテーション
5	小児のリハビリテーション
6	骨・関節疾患のリハビリテーション-1
7	骨・関節疾患のリハビリテーション-2
8	骨・関節疾患のリハビリテーション-3
9	末梢神経障害のリハビリテーション
10	パーキンソン病のリハビリテーション
11	呼吸器疾患のリハビリテーション
12	心疾患のリハビリテーション
13	後期総合復習-1
14	後期総合復習-2
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	出席、定期試験、授業態度、小テストの総合判定とする。
授業の進め方	教科書を中心に講義形式でポイントを確認しながら進め、テーマごとに国試問題の対策も行う。
注意 (学生に望むこと)	1,2年で学んだ基礎医学の内容を確認しながら進めるので、常に復習を心がけること。自身の臨床に必要と思われる内容は深く勉強してください。
テキスト・参考書	テキスト、その他

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	國分 俊繁 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	臨床医学各論Ⅱ	曜日・時間	水曜日 17:40～

【授業概要・目標】
 施術者として必要な現代医学の立場からみた系統別疾患の診断及び治療に関する基礎的知識について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	整形外科的治療法
2	骨代謝疾患と骨腫瘍
3	筋・腱の疾患
4	形態異常について
5	脊椎疾患について
6	脳血管疾患
7	感染性疾患・脊髄疾患
8	基底核変性疾患
9	痴呆(認知症)疾患
10	筋疾患
11	運動ニューロン・末梢神経疾患
12	リウマチ・膠原病疾患
13	小児疾患
14	一般外科・麻酔科
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	婦人科疾患
2	皮膚科疾患
3	眼科・耳鼻科疾患
4	精神科疾患・心療内科
5	練習問題Ⅰ
6	練習問題Ⅱ
7	練習問題Ⅲ
8	練習問題Ⅳ
9	練習問題Ⅴ
10	練習問題Ⅵ
11	練習問題Ⅶ
12	練習問題Ⅷ
13	練習問題Ⅸ
14	練習問題Ⅹ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記試験による評価とする。
授業の進め方	板書・配布資料
注意 (学生に望むこと)	解剖学や生理学の学習内容がベースになるので復習しておくこと。
テキスト・参考書	テキスト:臨床医学各論

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	古川 雄一郎 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	鍼灸臨床実技Ⅲ	曜日・時間	土曜日 13:10～

【授業概要・目標】 施術者として必要な施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。 はりきゅう治療の意義と役割、施術者の心構え、衛生管理、施術室の管理、リスク管理など
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	実技のオリエンテーション
2	はりきゅう実技復習Ⅰ
3	はりきゅう実技復習Ⅱ
4	腰部疾患に対する実技訓練Ⅰ
5	腰部疾患に対する実技訓練Ⅱ
6	肩関節疾患に対する実技訓練Ⅰ
7	肩関節疾患に対する実技訓練Ⅱ
8	頸上肢痛に対する実技訓練Ⅰ
9	頸上肢痛に対する実技訓練Ⅱ
10	膝関節疾患に対する実技訓練Ⅰ
11	膝関節疾患に対する実技訓練Ⅱ
12	実技練習
13	実技試験
14	実技試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前期の復習
2	はりきゅう実技試験訓練
3	はりきゅう実技試験訓練
4	はりきゅう実技試験訓練
5	はりきゅう実技試験訓練
6	特殊鍼法
7	特殊鍼法
8	特殊鍼法
9	はりきゅう応用治療実技
10	はりきゅう応用治療実技
11	はりきゅう応用治療実技
12	はりきゅう応用治療実技
13	実技試験
14	実技試験
15	評価点検

評価方法	出席・定期試験により評価する。
授業の進め方	総合臨床治療技術の習得および認定実技試験の合格を目指す。
注意 (学生に望むこと)	施術者・患者役となるので自己健康管理に留意すること。
テキスト・参考書	なし

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	神成 有己 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	東洋医学臨床論 I	曜日・時間	土曜日 14:50～

【授業概要・目標】
 西洋医学的な視点と東洋医学的視点の両方から症状や病態を把握できるようになる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	疼痛①
2	疼痛②と頭痛①
3	頭痛②と顔面痛
4	関節痛と頸肩腕痛①
5	頸肩腕痛②と上肢痛①
6	上肢痛②と肩関節痛①
7	肩関節痛②と疲労と倦怠感①
8	疲労と倦怠感②と発熱と冷え①
9	発熱と冷え②
10	発熱と冷え③とのぼせ
11	浮腫と掻痒感①
12	掻痒感②
13	問題演習①
14	問題演習②
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	臨床に向けた要点確認
2	臨床に向けた要点確認
3	臨床に向けた要点確認
4	臨床に向けた要点確認
5	臨床に向けた要点確認
6	臨床に向けた要点確認
7	臨床に向けた要点確認
8	臨床に向けた要点確認
9	臨床に向けた要点確認
10	臨床に向けた要点確認
11	臨床に向けた要点確認
12	国家試験対策
13	国家試験対策
14	国家試験対策
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験の結果をもってその学期の評価とする。
授業の進め方	前期はテキストを中心に後期は問題演習なども含めて進めていく。
注意 (学生に望むこと)	東洋医学と西洋医学両方の視点から病態を把握できるよう復習をしっかりとするようにお願いします。
テキスト・参考書	教科書を中心に進めていきます

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	伊東 太郎 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	東洋医学応用概論	曜日・時間	土曜日 16:30～

【授業概要・目標】 (1) はり師・きゅう師として必要な医学的知識の定着。 (2) 他の医療従事者との連携できるような医学的知識の定着。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	問題演習 (No.1)
3	問題演習 (No.2)
4	問題演習 (No.3)
5	問題演習 (No.4)
6	問題演習 (No.5)
7	問題演習 (No.6)
8	問題演習 (No.7)
9	問題演習 (No.8)
10	問題演習 (No.9)
11	問題演習 (No.10)
12	問題演習 (No.11)
13	問題演習 (No.12)
14	前期内容のまとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	夏休み明け実力試験
2	問題演習 (No.13)
3	問題演習 (No.14)
4	問題演習 (No.15)
5	問題演習 (No.16)
6	問題演習 (No.17)
7	問題演習 (No.18)
8	問題演習 (No.19)
9	問題演習 (No.20)
10	問題演習 (No.21)
11	問題演習 (No.22)
12	問題演習 (No.23)
13	問題演習 (No.24)
14	後期内容のまとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	・問題演習成績(50%)＋期末試験(50%)を総合して評価。
授業の進め方	・問題演習と修正レポート作成を中心とする。
注意 (学生に望むこと)	・A4ファイルを1冊用意すること。 ・分からないところはそのままにせず、調べてみる。
テキスト・参考書	・特になし。

2024年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	鍼灸医療科第二部 3年
科目名	臨床実習Ⅳ	曜日・時間	一曜日 一時限

【授業概要・目標】 ①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備(補助)ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習前授業(Ⅰ)
2	臨床実習前授業(Ⅱ)
3	臨床実習(1)
4	臨床実習(2)
5	臨床実習(3)
6	臨床実習(4)
7	臨床実習(5)
8	臨床実習(6)
9	臨床実習(7)
10	臨床実習(8)
11	臨床実習(9)
12	臨床実習(10)
13	臨床実習(11)
14	臨床実習(12)
◆	-
15	臨床実習(13)

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習(14)
2	臨床実習(15)
3	臨床実習(16)
4	臨床実習(17)
5	臨床実習(18)
6	臨床実習(19)
7	臨床実習(20)
8	臨床実習(21)
9	臨床実習(22)
10	臨床実習(23)
11	-
12	-
13	-
14	-
◆	-
15	-

評価方法	知識の習得・身だしなみ・参加意欲などを総合的に評価する。
授業の進め方	臨床に必要な知識の習得、施術見学、環境整備、施術準備(補助)などを中心に行う。
注意 (学生に望むこと)	積極的に実習に参加してもらいたい。
テキスト・参考書	なし

科目名	学年	授業時間数	教員名	実務経験	業務内容
運動学	2	60	吉本 豊	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
病理学概論	2	60	伊東 太郎	5年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
臨床医学総論	2	60	高橋 武彦	20年以上	病院、治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
臨床医学各論Ⅰ	2	60	古川 雄一郎	5年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
東洋医学各論Ⅰ	2	60	今野 弘務	10年以上	治療院に勤務した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸、柔道整復の臨床をおこなっている。
臨床経穴論	2	60	三保 翔平	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
東洋療法診断法Ⅰ	2	60	三保 翔平	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
鍼灸応用実技Ⅰ	2	60	吉本 豊	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸応用実技Ⅱ	2	60	古川 雄一郎	5年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸応用実技Ⅲ	2	60	国分 壮一	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
手技療法Ⅱ	2	60	糟谷 俊彦	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
臨床医学各論Ⅱ	3	60	國分 俊繁	10年以上	治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸、柔道整復の臨床をおこなっている。
リハビリテーション医学	3	60	高橋 武彦	20年以上	病院、治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
鍼灸理論Ⅰ	3	60	古川 雄一郎	5年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
東洋医学各論Ⅱ	3	60	浦山 久嗣	30年以上	治療院を開業した経験を持つ。
東洋医学臨床論Ⅰ	3	60	神成 有己	5年以上	治療院で勤務した経験を持ち、現在も治療院で柔道整復、鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
東洋医学臨床論Ⅱ	3	60	川嶋 睦子	20年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
東洋医学臨床論Ⅲ	3	60	國分 俊繁	10年以上	治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸、柔道整復の臨床をおこなっている。
東洋医学応用概論	3	60	伊東 太郎	5年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅰ	3	60	国分 壮一	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅱ	3	60	川嶋 睦子	20年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅲ	3	60	古川 雄一郎	5年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅳ	3	60	今野 弘務	10年以上	治療院に勤務した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸、柔道整復の臨床をおこなっている。
合計		1380			